



## ○授業研究

YIC グループでは相互授業参観を積極的に行っています。先日私が手を挙げて自分の授業を公開させてもらいました。教科は「子どもと造形」です。美術・図工が専門ですので、これまでの浅い経験からでも学生たちに伝えることがあれば、少しは役に立てるかなという思いで授業を担当させてもらっています。参観授業は1年生20名の教室で行いました。

内容を紹介してみます。◇幼児造形の原理◇クロッキー◇「はりはりあそび」◇「はさみのマジック」です。一コマ90分の授業としては内容を欲張りすぎていると自分でも思いますが、2年間の「造形」の総時間数を考慮すると必要なことではないかと考えました。時間配分には少し悩みました。座学と実技・実習のバランスをとることも大切です。

◇幼児造形の原理については省略します。◇クロッキーというのは短い時間で行うスケッチのことです。キャリアデザイン専門学校でもクロッキーを行っていますが、保育士志望の学生たちに経験してもらう目的は違います。ごく簡単に説明すれば、描写力の向上ではなく「見られる経験」と「観察力の向上」ですね。モデルは交代で学生たちに依頼しています。“せんせい”という仕事は自分がいろいろな人から見られる職業です。目の前の子どもたちは毎日“せんせい”を観察しています。その保護者はより厳しく見えています。また、保育士は子どもたちを常に観察しなければなりません。体調の良し悪し、さまざまな表現意図、心の動きなどなどですね。クロッキーを通して感じ取ってほしいと思っています。結果的に描写力の向上につながればいいことはないですね。

◇「はりはりあそび」は私の造語です。シールなどをぺたぺた貼ることを子どもたちは好みます。はがして引っ付ける感触を味わうこと、貼って止まる不思議さを感じる、模様や絵になったときの驚きや表現活動の喜びを感じ取ることなど、単純な作業の中で子どもが学び取ることはいくらもあります。先日2歳になった“まご”の行動を見ているとそんなことを実感します。

◇「はさみのマジック」は子どもの発達段階とはさみという道具の扱い方を学ぶために取り入れました。この時間では色紙を“切り止め”で写真のような模様を工夫して「葉」を作ることを目的にしました。前時には“切り回し”をしてみんなの作品を集めて「すだれ」を作りました。しかしこのとき学生たちは思っていたよりも熱中し、より細くより長く切っていたので展示作業は紙がもつれてたいへんでした。学習(指導)計画作成時に構想する「予想される学生(子ども)の反応」が甘かったと自己反省した次第です。近い将来子どもたちの学習(指導)計画を作成するようになる学生に「失敗して改善すること」の大切さを伝えました。



“ひたすら長く”に  
挑戦したすだれ

## ○自校自賛

本校の教職員に私の授業を参観してもらい、後ほど感想・気づきをいただきました。そのような意見を受けるのは楽しいですね。教職員の前向きさを感じる、自分が気づけなかったことに気づかせていただけること、専門の違いから違う視点を見つけられること、次の授業の構想に役立つ情報がいただけることなどです。

余談ですが、私は立場上ときどきいろいろな授業を参観しています。役得ですね。